

事りたり。奥陸語記曰説出羽山北倭  
因清原真人光頼舎て武則等令て力官  
軍光頼等猶豫未決將軍常贈以奇珍光  
頼武則等漸以許諾又曰頼義朝臣頻求  
兵於光頼并舎て武則等於是武則以同  
年秋七月率子弟万余人兵越來於陸奥  
国云々又後三年記序に貞和三年法平  
府將軍法平武則り孫荒河を率て武則り子  
吉衡り固有の妻とてふの事なり記りて  
一族なりと稱從とあり秀武同書より  
出羽國の

任人吉慶秀武といふ若き  
武則り母方のをいむことを

いふそ余殃廣きに及て終て武衡亦衡  
ををめられと云々按るに武則安業に  
与力し功によりて後府の將軍に任  
せられ金沢の地をあり武衡亦衡より  
りたりや

一八 懷官

金沢村にあり頼義朝臣并八懷左衛門安  
信兄弟を妻あり一時勅使あり社とを  
社領三十石社家一人あり権五郎重政の禮